

種 名 アセビ

万葉時代の呼名 あせび・馬酔木



詠人作者未詳

万葉集卷十一 一九〇三

我が背子に我が恋ふらくは奥山の
馬酔木の花の今盛りなり

【現代訳】

いとしいあのお方を、顔にも出さずに恋い慕うわたしの恋心は、ちょうど山奥で人知れず咲き盛るアセビの花のように今まっさかりです

【アシの解説】 ツツジ科の低木

本州、四国、九州の山地に自生する常緑樹。やや乾燥した環境を好み、樹高は1.5mから4mほどである。早春になると枝先に複総状の花序を垂らし、多くの白いつぼ状の花をつける。馬酔木の名は、馬が葉を食べれば苦しむという所からついた名前であるという。多くの草食ほ乳類は食べるのを避け、食べ残される。そのため、アセビがやたら多い地域は、草食獣による食害が多いことを疑うこともできる。アセビは庭園樹、公園樹として好んで植栽される外、花もの盆栽等としても利用される。